

臨床検査医学

○ 臨床検査医学の概要

1. 臨床検査医学の特色

臨床検体を用いた血液、凝固、生化学、感染症、細菌、輸血、遺伝子検査などを高感度かつ高精度で実施できる臨床検査医学の体制を技師と一緒に構築している。生理機能検査の心電図、腹部エコー、心臓エコー、脳波などを臨床側のニーズに合う形で提供できる体制を整備する努力をしている。

現在、医師は3名、検査技師は50余名で構成されている。

医師が日常的に行っている業務は、新しい検査導入のための基礎的検討の技師指導、腹部エコー・表在エコー検査報告書の作成、骨髄像検査の報告書作成、検査トラブル発生時の臨床側への速やかな対応、部内の精度管理委員会と医療安全委員会の指導、などを担当している。

また、医学部5年生のBSL指導（凝固検査、尿沈査など）、医療学部生の卒業研究指導・大学院修士学生の指導（造血・再生医学に関する論文紹介）も行う。

一番大切にしたいと考えている医師の役割は、日常検査の中で遭遇した解析難解症例の解明に向けた取り組み、特徴のあるデータを集めて解析し研究活動を指導することである。臨床検査医学にふさわしいテーマを決めて残余検体を用いた臨床研究、あるいは若干の介入を伴う前向き臨床研究も推進している。

2. 診療実績（2015年度）

毎週60件程度実施されている腹部エコー、表在エコー（甲状腺、リンパ節）の検査報告書の作成と、検査所見について担当した技師と所見の確認作業を行っている（乳腺エコー、心臓エコー検査については乳腺腫瘍科、心臓血管外科の専門家に依頼している）。

凝固検査、脂質検査、腫瘍マーカー、薬物濃度などの新規試薬検討を技師と協力して実現した。

毎週15件程度、骨髄像検査報告書を作成し臨床側へ情報提供するようにしている。

3. 診療・教育スタッフ

海老原康博（教授）

池淵 研二（教授）

小林 清子（助教）

4. 研修責任者と臨床研修指導医、上級医（指導者）

研修責任者：海老原 康博

臨床研修指導医：海老原 康博

上級医（指導者）：小林 清子

5. 臨床研修プログラムの特色

骨髄像、細菌検査、遺伝子検査、輸血検査など検体検査の実技が習得できるコースと、腹部・表在・心臓・血管エコー検査の実技を習得することを主たる目的とするコースの2コースを研修できる。

6. 経験目標・到達目標

一般目標（G10）

実技コース1：

骨髄像、特殊染色、白血病細胞の分類、その他血液疾患の特徴的な所見が分かる。

細菌検査、塗末培養、薬剤感受性試験、遺伝子タイピングなどができる（大学病院と共同）。

遺伝子抽出、増幅、同定検査ができる（大学病院と共同）。

輸血検査（血液型、交差適合試験、不規則抗体）ができる。血液製剤の選択ができる。

実技コース2：

腹部エコー検査が一人でできる。

甲状腺、リンパ節、乳腺エコーが一人でできる。

心臓エコーが一人でできる。

行動目標 (SBOs)

1. 検査の原理が理解できる。
2. 検査の基本的な実技ができる。

到達目標と評価表 (1ヶ月間研修した場合)

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 骨髄像が読める。	()	()
2. 細菌のグラム染色と顕微鏡観察ができる。	()	()
3. 遺伝子検査用のサンプル調製と検査ができる。	()	()
4. 輸血検査が間違いなくできる。	()	()
5. 腹部エコー検査が支援できる。	()	()
6. 心臓エコー検査が支援できる。	()	()

到達目標と評価表 (2ヶ月目以上研修した場合)

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 骨髄像が読める。	()	()
2. 白血病の骨髄像診断ができる。	()	()
3. 細菌のグラム染色と顕微鏡観察ができる。	()	()
4. 遺伝子検査用のサンプル調製と検査ができる。	()	()
5. 輸血検査が間違いなくできる。	()	()
6. 自己血採血ができる。	()	()
7. 腹部エコー検査が一人でできる。	()	()
8. 心臓エコー検査が一人でできる。	()	()

7. 週間スケジュール

本人の希望を聞き、研修計画を立案する。

①髄像検査、②細菌検査、③検体検査、④遺伝子検査、⑤輸血検査、⑥腹部エコー、⑦心臓エコー検査を可能な範囲で並行して教育できるスケジュールを立てる。

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
埼玉医科大学国際医療センター
臨床検査医学 海老原 康博 (教授)
TEL : 042-984-4384
E-mail : ebihara@saitama-med.ac.jp